

おか

なり

いけ

岡成池

よなご
(鳥取県米子市)





↑現在の岡成原

おか なり はら 岡成原の今は昔

百塚原とは岡成原の総称で、100以上の古墳群があったのですが、土地の造成や開墾などで今はほとんど古墳は見あたりません。明治の末には広々とした原野は、陸軍の演習地ともなりました。大正末期に米子市の倉敷元次郎という土木業者が、岡成原を開墾し本宮より水を引き水田をつくる計画を立て、多くの人夫を入れて工事に着手しました。しかし、資金難で挫折し、水田は実現しませんでした。その後、開墾地は桑畑となり、養蚕の全盛期を支えました。大正末期から昭和初期にわたって、箕蚊屋(注) (併合) 青年団の運動会や箕蚊屋小学校の合同運動会が、一番広く平坦な場所で行われていました。

(注) 箕蚊屋 (併合)

みのかや(へいごう)

大幡(おおはた)、春日(かすが)、県(あがた)、大高(おおたか)、大和(やまと)、巖(いわお)、日吉津(ひえづ)の日野川東に位置する7ヶ村のことをいいます。

大正10年頃、大神山神社宮司の子息を長野県から招いて、当地方でスキーを学校の生徒たちに教えたということです。当時は、竹を火であぶりスキーをつくって使っていました。やがて子ども用のスキーをつくって売る店ができました。今のような立派なスキーではありませんでしたが、広く平坦な運動場の岡成原は、小学生たちがすべるのに最も適したところでした。

現在、岡成原の南側は大山道路がつくられ、交通の要所となっています。

尾高城と岡成池

県道米子大山線の入り口南側にある丘陵地は、その昔、尾高城があったところです。戦国時代に西伯耆の拠点として最も多く戦いが繰り広げられた所だと伝えられています。その一角には、米子勤労総合福祉センター米子ハイツがあります。尾高村（現在の米子市尾高）は交通の要所であり、右大山道、左因幡道と刻まれた道標が今でも立っています。

尾高城は誰が築城したのかわかっていません。応仁（1467年）の頃、城主であっ



↑ 岡成池の北側にある
大山道路



↑ 今でも残っている道標

たと伝えられる^{ゆき まつ まさ もり}行松正盛は、^{もう り もと なり えん}毛利元就の援
助^{じよ}もありましたが^{びやう し}病死してしまいました。
^{お だか}尾高の地は^{ぐん じ じょうじゆうよう}軍事上重要な所と
考えていた毛
利元就は、^{じゆうしん}重臣であった^{すぎ はら もり しげ じょうしゆ}杉原盛重を城主に
おき、^{てき たい}敵対していた^{あま こ ぐん そな}尼子軍に備えたという
ことです。

^{おか なり}岡成池は、^{むろ まち}室町時代に農業用のため池と
して、^{ち え}村人の知恵によってすでにつくられ
ていたと考えられています。^{え ど ちゆう き}江戸時代中期
に^{はっ かん}発刊された「^{てん まん かま くら やま かつ せん き}天満鎌倉山合戦記」に、「山
の下側^{つづみ}に大堤をつくって^{まん すい}満水にして、敵が
攻めてくれば^せ堤防を崩し^{くず おお みず}大水を流して敵を
退治^{たい じ}する」と書かれています。しかし、こ
の合戦記は^{でん しょう}伝承として残されているもので、
^{じつ さい}実際に戦いはなかったことが今ではわかっ
ています。そして、この合戦記がもとにな
り^{が い て き らい しゆう}尾高城を外敵の来襲から守るため、急い
で3日3晩^{ばん}で岡成池をつくったことが伝
わったと考えられています。



おだか あとち
↑ 尾高城の跡地

岡成池の決壊^{げっかい}

岡成池の堤防は、室町時代^{むろまち}より長い年月がたち、高く積み上げられた堤防の幅が次第^{だい}に薄^{うす}くなってきました。1726（享保11）年12月8日正午頃^{しょうごごろ}、突然岡成池の堤防が33間^{けん}（およそ60メートル）にわたってくずれました。地震^{じしん}のような地響き^{じひび}とともに流れ出した水は、尾高村の家々^{いえいえ}をくずし、死者^{ししや}74人、壊れた家^{こわ}30軒、流された家^{けん}73軒、そして牛馬^{ぎゆうば}11頭と田畑^{とうでんばた}6.3ヘクタールあまりを一気に流してしまいました。

岡成池が決壊^{げっかい}して、池の下流^{かりゅう}にあたる村々が大惨事^{だいさんじ}に見舞^{みま}われました。そのとき、村人たちは正月^{むか}を迎える準備^{いそが}に忙しく、正月飾り^{かさ}のわら仕事^{かどまつ}や門松^{かどまつ}づくり、正月用品の



↑ 水をたたえた岡成池^{おかなりいけ}

仕入れなどに走り回っていました。突然地震のような地鳴りとともに山のような水柱がおそい、誰もが初めて起こる出来事を見たのでした。その後、岡成池の洪水により、村人たちは正月かざりや門松をたてることを長い間やめました。

岡成池の今

岡成、尾高、泉地域の水田およそ28町歩（ヘクタール）に水を送っている岡成池は、収穫が終わる秋にいったん水をぬき、12月に再び水をため始めます。水をため始めるときには、「直らえ」というお祝いをして、ためた水を水田に流す翌年の日を決めます。水を流す日には、みんながけが



↑ 水をぬいたときの岡成池

をしないようにお酒でお祝いし、朝6時に水田に向けて水を流します。

さん いん じ どう しゃ どう
山陰自動車道の建設で水田の面積は減りましたが、今でも岡成池の水は、大切に使われています。



おかなり
↑ 岡成池の水で育った稲



しゃひ
↑ 岡成池の水の出口(斜樋)



よなご
↑ 岡成池から米子市内を望む